

今回のテーマ

新年度スタート！

4月になり、新しい環境や立場での仕事もはじまったのではないのでしょうか？慣れない生活は本当に大変です。健康第一でできることからコツコツと大切にがんばりましょう！今号より「子どものネットリスク教育研究会ニュース」となります。前号までは「青森支部」として発行していましたが、全国的な視野も入れながら、皆さまの研修や啓発に役立つ情報や研究会の動向等を発信していきます。

★書籍紹介★

SNSのテクニックではなく、コミュニケーションツールとしての基礎的な考え方展開

高橋大洋著『学生のための SNS 活用の技術』講談社サイエンティフィック

「ケータイの利用を考える全国市民ネットワーク」ではお馴染みの高橋大洋さんが、2017.9月に刊行された著書です。タイトルは、「学生のための」となっていますが、SNS利用者全てを対象にした内容です。内容は『自分の知見を広げ、世界に発信するツールとしていかに活用するか』、『そのためにはネットの特性やリスクを認識する重要性』、『具体的活用法』などですが、強く心に残ったところの一部を抜粋させていただきます。

※「無料なのに高機能を支えるしくみ」(情報発信者・企業には意図があること)

情報受信側は、何気なく情報を受信・収集しているつもりでも、利用者がサイトをどのように移っていったか、検索のどの語彙にどのように反応したか、定量的に追跡・把握することで受信者の行動の意図を推測できる。サイト運営者は利用者を注意深く観察し、届ける情報の選択や加工・表現の仕方にいち早く反映している。

※SNS活用を成功した方の事例では、

「ピコ太郎」は情報拡散のかんどころをよく理解していたから、とのこと。※本当に大切なことでは「SNSを離れ、一人で考える時間をどう確保するか」、という章で結んでいます。とても分かりやすいテキストで高橋さんの授業を受講する学生はうらやましい限りです。インフラと化したネットの利用法は全学生には勿論、生徒・児童にも交通ルールと同様に考えさせなければならない内容だと思いました。

(主幹研究員 矢野さと子)

★ 講演依頼続々届いています ★

講演依頼等が続々と届いています。社会的に問題意識が高まっている証拠ですね。青森支部のもとに4月現在では以下の団体から講演を依頼されています。

- 6月 平賀民生委員児童委員協議会 様
平川市竹館小学校 様
- 7月 青森市立戸山西小学校 様
- 9月 全国薬物依存症者家族連合会 様
チャイルドラインあおもり 様
- 11月 平川市学校保健会 様

上記を見てみるとわかるように学校関係団体だけではなく、色々な団体から問い合わせがあり、社会全体としてスマホ・ネットの問題に取り組んでいかなければならないと感じています。

認定インストラクターが各地で誕生し、普及・啓発が草の根的に広がっていかねばなりません。研究会の意義は大変大きいものがあります。

編集後記

前号が3号だったのですが、今号は34号となります。子どものネットリスク教育研究会ニュースとしてこれまで33号メール発信してきました。34号からは紙媒体とメールの両方で発信する体制をとりますので、研究会ニュースを引き継ぎ、34号となります。月一回の発行を目指し、お届けします(^_^)